2005 年 G8 研究開発評価ワーキンググループ会合について

期日: 2005年11月14日(月)~16日(水)

場所: イギリス・ロンドン 参加国:英、仏、独、加、日 (米、伊、露は欠席)

開会挨拶

Randal Richards (Director, Research and Innovation Engineering and Physical Sciences Research Council)

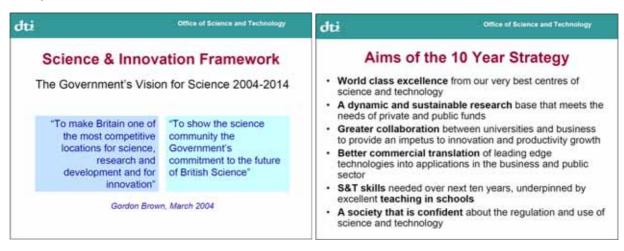
【各国からの報告概要】

英国

Presentation 1 "10 Year Strategy for UK Science"

Paul Williams (Director, Research Councils Office of Science & Technology)

- ・ 2004年に、政府は、科学技術政策の総括と10年間フレームワークを策定した。
 - 1) 科学技術の研究開発およびイノベーションについて、英国を最も競争力のあるポジションに 位置づける。
 - 2) 科学コミュニティーが英国の科学の将来に対する政府のコミットメントを示すこと。
- ・10年間フレームワークの目的は以下の通り。
 - 1) 英国の最も卓越した研究拠点でワールドクラスの研究を推進すること。
 - 2) 民間・公的資金配分機関のニーズを満たすようなダイナミックかつ持続可能な研究ベースを 構築すること。
 - 3) イノベーションと生産性向上に寄与するよう産学連携を進めること。
 - 4) 最先端技術をビジネスと公共部門に適用できるように、よりよい商業転換を推し進めること。
 - 5) 来るべき 10 年間は科学技術のスキルがより重要になるため、優れた教育制度が必要。
 - 6) 科学技術の活用や規制に自信を持てる社会を確立すること。



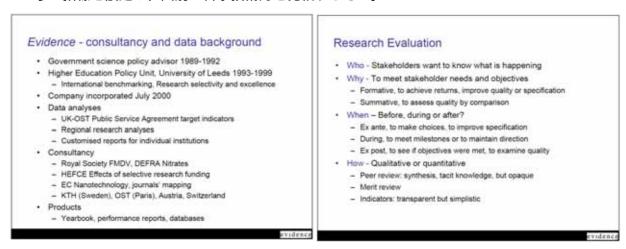
10年間フレームワーク

10年間フレームワークの目的

Presentation 2 "Research assessment and evaluation in the UK"

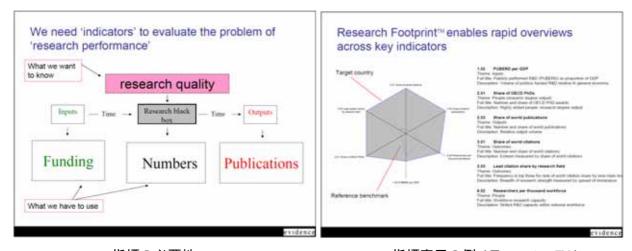
Jonathan Adams (Director, Evidence Ltd.)

- ・ Evidence 社の英国における研究開発アセスメント・評価事業について説明があった。
- ・ 研究開発評価の視座としては、Who / Why / When / How が重要であり、それぞれにおいて、 研究開発評価のための各種指標を設定・比較することが必要。
- ・ 研究開発評価において指標による研究の質評価の必要性が述べられた。
- ・ 総合指標 Footprint ™による国別比較を実施している。これは、GDP 当たり研究開発に費や す公的資金の割合、論文数及びシェア、被引用数及びシェア、労働人口における研究者の割 合、同 Ph D の数と割合、主要 9 研究分野における被引用数シェアのトップ 3 に入る頻度とい う 6 指標を設定し、国別の科学技術力を比較するもの。



Evidence 社の評価活動

研究開発評価の視座



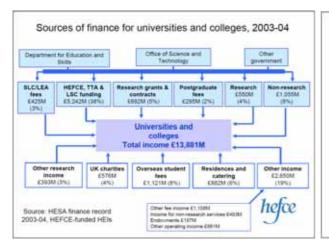
指標の必要性

指標表示の例 (Footprint TM)

Presentation 3 "UK Research Assessment Exercise and funding"

Rama Thirunamachandran (Director for Research and Knowledge Transfer, HEFCE)

- HEFCE の資金提供は英国の全大学の歳入のうち 38%を占める。
- 研究資金のパフォーマンスを評価するため RAE (Research Assessment Exercise)を実施。

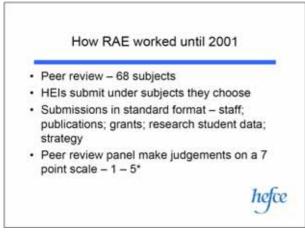


Assessing excellence: Research Assessment Exercise (RAE) RAE: a system for assessing research that both informs funding and demonstrates the power of the national research base · Periodic UK-wide assessment exercises covering the whole HE research base (1986, 1989, 1992, 1996, 2001) Reviewed in 2003

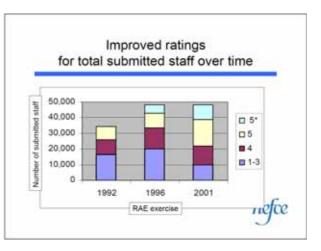
全英の大学の歳入状況(2003-4)

RAE の概要

- RAE は、68分野ごとに、評価方法(評価項目、評価基準等)を設定し、ピアレビューパネ ルによる評点法(1~5、5*)によって評価している。
- ・ 1992年 ~ 2001年までの間に高得点を獲得する機関が大幅に増加するとともに、引用回数が多 い論文が世界の中で上位1%にイギリスの占める割合が増えるなどの改善が見られている― 方、大学が RAE という制度の仕組みを巧妙に理解するようになり「ゲームのような駆け引き」 が行われるようになったり、学際的な研究、共同活動、共同研究が過小評価されてきた、補 助金の増額に限度があるなどの問題点も生じている。
- ・ こうした問題点を踏まえ、2008年のRAEは、 二重構造の部会構成(主要部会と副部会 を設置)し、分野間の評価の統一性を確保する。 格付け等級(1~5*)の廃止と格付けさ れた質の一覧表(研究活動の質を4つの群に分け、それぞれの群に分類される研究活動の割 合を示したもの)の導入などが挙げられる。



RAE ピアレビューパネルと評点法



改善の効果

フランス

Presentation 4 "Country Briefings: French Update"

Alain BILLON (Inspector, General Ministère éducation nationale enseignement supérieur recherche)

- ・ LOLF¹の 2006 年からの本格運用により、すべての省庁が政策のパフォーマンスと成果を議会 に報告しなければならない。
- ・ パフォーマンス指標の設定が要求されているが、指標化に伴い様々な問題を抱えている。



LOLF 概要

パフォーマンス指標の作成

- ・ LOLF の抱えている構造的な問題(ミッション、プログラム、アクションという階層構造) と、複雑な研究組織形態(研究機関と高等教育機関の入り組んだ構造等)が研究開発活動の 指標化を困難にしている。
- ・ 指標化を過度に適用すると、被評価側が指標を最大化するように行動する(ゲーム的行動)。



LOLF の問題点

指標化の功罪

 $^{^1}$ Loi organique sur les lois de finances : LOLF 米国の GPRA に相当する法律。 2001 年にフレームワーク、 2004 年に試験試行、 2006 年より本格運用。

日本

Presentation 5 "Research and Development Evaluation in Japan & MEXT"

後藤裕(文部科学省 評価推進室長)

- 日本の科学技術推進体制、内閣府の評価について説明。
- 平成17年9月に改定した「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」のポイン トについて説明。
- 独立行政法人科学技術振興機構における競争的資金の評価制度、独立行政法人理化学研究所 のユニット評価方法について概略を説明。

3. Structure of R&D Evaluation in Japan Other Mini MEXT Guideline Organization Level

- CSTP is promoting R&D evaluation as an integral part of S&T policy Ministries and R&D Organizations carry out the major part ot evaluation activities

研究開発評価の体系



- $\label{eq:local_local_local_local_local} Implementing evaluations that encourage innovative researchers and find, promote and develop outstanding R&D \\ \bullet \ \ Recognize that former evaluation sometimes discourage researchers$

 - Continuation of the excellent projects through evaluation

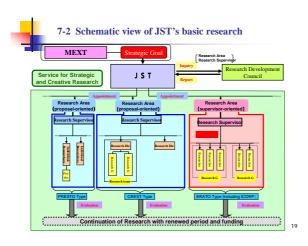
 Determine appropriate methods and elements based on the stage of development or nature of R&D activities

 Find ways to avoid being overly bureaucratic or discouraging a researcher's enthusiasm for challenge
- Acquiring the evaluation resources and strengthening the support system necessary for evaluation

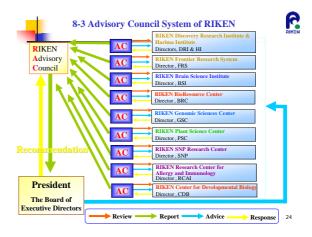
 Prepare necessary budget for evaluation process

 Perform studies to develop evaluation methods (especially for basic research
- etc..) Foster/obtain human resources for evaluation
- Develop/use the R&D database
- · Reforming aimed at efficient and effective evaluation systems

文部科学省評価指針の改定のポイント



科学技術振興機構(JST)のスキーム

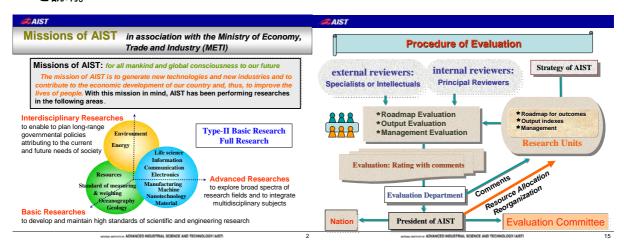


理化学研究所アドバイザリーカウンシル(RAC)

Presentation 6 "Evaluation System from the viewpoint of OUTCOMES"

中村修(経済産業省 産業技術総括調査官)

・ 独立行政法人産業技術総合研究所におけるアウトカムを志向した評価システムについて概略 を説明。



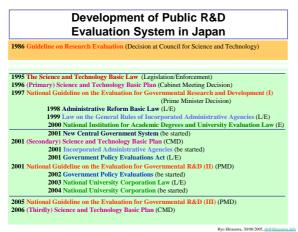
産業技術総合研究所のミッション

評価の手順

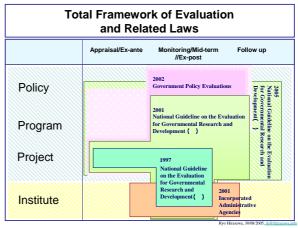
Presentation 7 "Comment for the Two Presentations"

平澤冷(東京大学名誉教授)

・ 日本の評価システムの歴史と今後の課題について説明。今後の課題として、政策評価の適切 な実施、評価における比較の視点の導入、評価に係るコンセプト(アウトカムとインパクト、 必要性、有効性と効率性)に関する定義の適正化、評価人材の育成・確保などが言及された。



公的研究開発評価制度の展開



評価の全体的枠組みと関連法令